

Lavoro

～ラヴォーロ～

法務省東京矯正管区 〈刑務作業広報誌〉

2023

No.005

新潟
刑務所編



刑務作業の御依頼はこちらへ

窓 口	電 話 番 号	主 な 業 種
法 務 省 矯 正 局	03-3580-8814	
東 京 矯 正 管 区	048-601-1607	
水 戸 刑 務 所	029-273-9796	木工、洋裁、金属、その他
栃 木 刑 務 所	0282-27-9611	洋裁、金属、その他
喜連川社会復帰促進センター	028-686-3111	木工、金属、その他
前 橋 刑 務 所	027-223-3024	木工、印刷、金属、革工、その他
千 葉 刑 務 所	043-232-6079	木工、印刷、洋裁、金属、革工、その他
市 原 刑 務 所	0436-36-6001	金属、その他
東日本成人矯正医療センター	042-500-5271	その他
府 中 刑 務 所	042-362-2101	木工、印刷、洋裁、金属、革工、その他
横 浜 刑 務 所	045-842-0040	木工、印刷、洋裁、金属、革工、その他
横 須 賀 刑 務 支 所	046-842-4983	その他
新 潟 刑 務 所	025-286-5626	木工、金属、その他
甲 府 刑 務 所	055-241-8878	木工、洋裁、金属、革工、その他
長 野 刑 務 所	026-248-1114	洋裁、金属、革工、その他
静 岡 刑 務 所	054-261-2886	木工、印刷、洋裁、金属、その他
川 越 少 年 刑 務 所	049-242-0226	木工、金属、その他
松 本 少 年 刑 務 所	0263-32-3093	木工、印刷、洋裁、金属、その他
東 京 拘 置 所	03-3690-6681	その他
立 川 拘 置 所	042-540-4191	その他

メールでのお問合せ先

Kyosei-sagyou@i.moj.go.jp

- 件 名：刑務作業依頼
- 記載事項：①会社名
②住所
③連絡先（電話番号、FAX 番号、E-Mailアドレス）
④担当部署、担当者名（ふりがな）
⑤作業内容、希望人員、希望地域など
⑥その他要望事項

表紙のLavoro（ラヴォーロ）とは
イタリア語で「働く」という意味
です。

—取材先—
新潟刑務所

—企画・取材・編集—
東京矯正管区成人矯正第三課

—発行—
東京矯正管区

〒 330-9723
さいたま市中央区新都心 2-1
さいたま新都心合同庁舎 2 号館 13 階
【TEL】 048-600-1500 【FAX】 048-600-1505



本誌のバックナンバーは
こちらから▼



歴史

新潟刑務所では、26歳以上で刑期10年未満の犯罪傾向が進んでいる男子受刑者と新潟地方裁判所、同新発田支部、同三条支部で裁判を受ける刑事被告人などを収容しています。

新潟刑務所は、江戸時代に、現在の新潟市西堀通と古町の間付近にあった牢獄から始まったとされています。その後、明治元年に徒刑場として開設され、明治36年に司法省の所管になり、新潟監獄と改称されました。さらに、大正11年に現在の名称である新潟刑務所と改称されました。そして、昭和39年に防災都市計画により現在の新潟市江南区への移転が決定し、昭和46年に移転され、現在に至ります。

旧新潟刑務所は現在では、西大畑公園となり、外壁の一部に当時の刑務所のレンガが用いられるとともに、通用門を縮小再現したものが残されています。そして、当時は細い小路を隔てた先に「高級料亭」があり、「監獄所（旧新潟刑務所）」と對比され、この小路は「地獄極楽小路」と呼ばれ、現在にも過去に刑務所があったことの名残を残しています。

工場風景

新潟刑務所では、木製と乾漆の二種類の漆製品とだるま製品を自所製品として生産しています。漆製品の彫り及び塗り作業、だるま製品の彩色等すべての作業において、丁寧とせん細さ、高い集中力が必要とされ、担当している受刑者は、高品質な製品に仕上げられるように妥協なく誠実に作業に取り組んでいます。



旧新潟刑務所の門



現在の西大畑公園



地獄極楽小路



旧新潟刑務所の門の再現品



高級料亭の入口



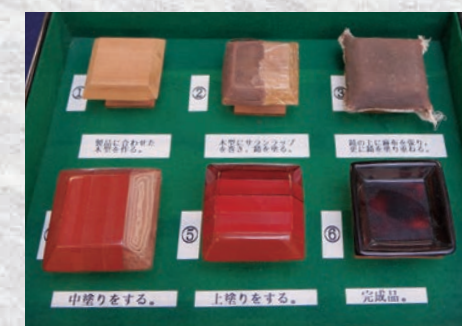
刑務所時代と新しい煉瓦



細かい作業も手作業で丁寧に仕上げています。



漆を塗る際は、ムラができないよう均一に塗り拡げます。



乾漆の製作手順見本。各種表彰の一部。



製作している製品と彫り見本（手前）。完成確認前の製品（奥）。

新潟刑務所で製作している

だるま

ここに掲載しているだるま製品は一部作品例です。

これらの商品は CAPIC（刑務所作業製品）販売所のほか、インターネット通販でもお買い求めいただけます。



ネコだるま
刑務官 ver

身近な愛らしさをイメージしたアニマルだるまです。

イヌだるま
刑務官 ver

身近な凛々しさをイメージしたアニマルだるまです。



背面



背面

貯金だるま
くまモン ver.

世界の大スターくまモンに貯金箱スタイルのだるまに変身してもらいました。



だるまは、紙を溶かして固めた型に、土粘土を成形して乾燥させた土台を取り付け、胡粉と接着剤の混合物で隙間を埋め、白の塗料によって全体を塗った素体を作ります。そこに模様や顔を下書きして、下書きに沿って彩色を行います。

この製品一覧には載っていませんが、側面に金運上昇、背面には新潟の象徴とも言える縁起の良い鳥である朱鷺が描かれた秘密？のだるまもありますので、是非ともCAPICの製品一覧から探してみてください。

工場風景

だるま製作



おきつ
興津 作業専門官
プロフィール

令和3年度に拝命、令和4年度末から事業部作業（漆製品及びだるま製品）を担当しています。趣味はゲームのプレイ動画を視聴することと食べ歩き。新潟は美味しいものが多く、増量と減量を繰り返していますが、またそろそろ減量しないといけないと思いダイエット中。



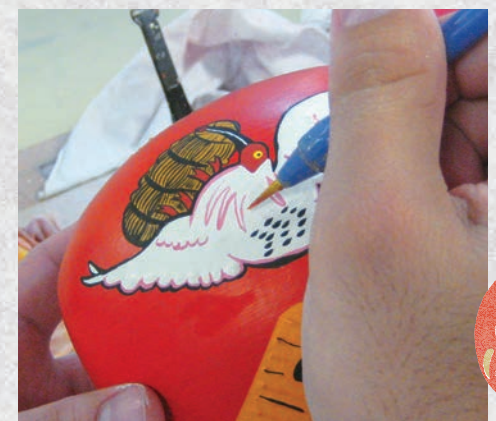
一つずつ丁寧に手作業で表面を整えます。



だるまの原型となる塊。ここから全てが始まります。



塗装途中のだるま。



着色作業は専用の細筆で慎重に塗っていきます。

手作業で行ってほしい。



乾漆製作

「乾漆（かんしつ）」とは、木製の器の表面に漆を塗り重ねることで作る漆器とは異なり、「寒冷紗（かんれいしゃ）」と呼ばれる布と「錆（さび）」と呼ばれるいくつかの材料を混ぜ粘土状にした漆を塗り重ねることで器を作り、その上から塗装用の漆を塗り重ねて仕上げた漆器を言います。



乾漆は、器を作ることから始めるため、通常の漆器よりも完成までに時間を必要とします。彫りや沈金といった加工を施さなくても約1年かかります。

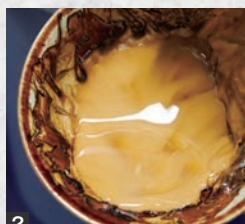
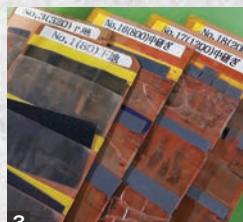
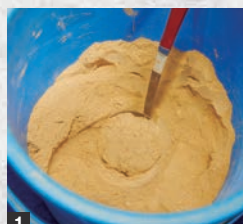
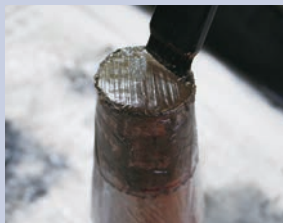


乾漆ぐい呑み

乾漆ビールカップ

製作工程

型に布を貼り、漆を塗り重ねる。同様の工程を複数回繰り返します。



1「錆」の素材の一つ「木粉」。2「錆」の重要素材である「生漆」。3数多の粗目番号違いのヤスリ板。製品を削り出す大切な道具 4仕上げで使用する磨き粉の数々



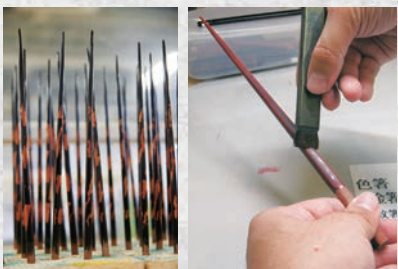
乾燥させた「乾漆」。ここから研磨します。



ヤスリを用いて凹凸等の整形を行います。整形した器に漆を塗り重ねて仕上げていきます。

漆器製作

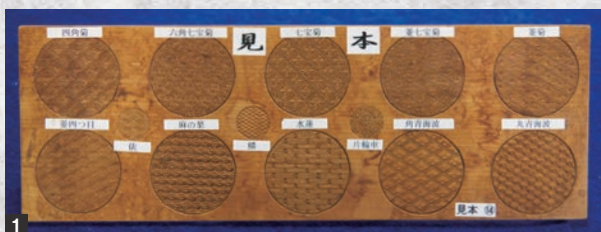
漆器の美しい仕上がりには、漆を均一に塗る高い技術が必要とするのはもちろんですが、出来栄えを左右する重要な工程が乾燥です。漆の乾燥は、空気中の水分を取り込み、その水分中の酸素と反応することで、液体から固体に変化する特性を利用することから、外気の影響を大きく受けやすいので、乾燥には温度と湿度を調整できる保管庫を用いて、理想的な環境（気温25〜30℃、湿度70〜80%程度）となるよう、日々の気候に応じた調整をすることが大変重要になります。



箸は一本一本手作業で漆を塗ります。



温度、湿度が管理された保管庫にて漆を乾燥させます。



1 彫りパターンを見本板。2 製品彫りに使用する専用彫り道具。3 漆を塗る刷毛。なんと人の毛髪で出来ています。



編集後記

本誌を手に取り、最後まで読んでいただき、誠にありがとうございます。

本年度よりコロナウィルスが5類となり、矯正展を開催できるようになったものの、現在は新潟市内での開催に留まっております。より多くの人に新潟刑務所の製品の魅力を知っていただき、手に取ってもらえるきっかけになれば幸いです。



ここに掲載の商品は全てCAPIC（刑務所作業製品）販売所、インターネット通販でお買い求めいただけます。